

6. コロンビアの日常4：家族の実態その2

天理教コロンビア出張所長
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

天理教コロンビア出張所は富裕地区に位置する。日本では、芦屋の高級住宅街以上と想像して頂きたい。といっても出張所は非営利法人であり、「裕福」ということではない。この地区は一軒の土地面積が広い。新型コロナウイルスのパンデミックの前、私はこの近辺を毎日散歩していた。久々に（約3年ぶり）同じ所を歩いたら「！！！！」。豪邸が無くなり、建設ラッシュ。何の建設だろう、と表を見ると高級マンションの完成図だ。このパンデミックの間にこれだけ一度にマンションの建築ラッシュというのは何かわけがあるに違いない。とはいえ調査のしようがないので、憶測で言うと、その家主たちが豪邸の維持が出来なくなってきたのではないか。そういえば、以前から豪邸が売りに出ている、イベント会場（パーティ会場、結婚式場など）になったり、店舗（ブティックやレストラン）になったりしてきていたのであった。

最近の家族形態の傾向を考えて、家主の高齢化か家族の独立かは分からないが、1世帯に居住する構成人員が減り、そのため豪邸を持ってあますようになった。その代わりその不動産を活用し、何かお金の入る方法はないものかと考え、マンションを建てて、「これを売る・貸す」という著者の「素人考え」も成り立つ。しかし、新しく建築する高級マンションといえども居住人数は4人～6人くらいである。ということは、こんなところにもコロンビアの家族が核家族化・単親家族化に向かっているのでは、とも考えられる。

さて、前置きが長くなったが、前回の続きである婚外子を軸にした「ひとり親家庭」「シングルマザー」を深掘りしていく。シングルマザーと母子家庭

母子家庭のお母さんのことをシングルマザーと思い込んでいたが、スペイン語圏では様子が少し違う。シングルマザーと「ひとり親家庭（単親家庭）」というインターネット記事を見つけた。そこではスペインの法律をベースにして、シングルマザーとひとり親家庭（母子家庭）の定義がされてあった。

「シングルマザーとは子供を持つ女性でそれまで婚姻をしていないこと」であり、ひとり親家庭というのは母子家庭もしくは父子家庭、つまり、シングルマザーかファーザー、離婚もしくは別居している親、未亡人、寡夫と子供で構成されている家庭を言う。

日本ではそういう区別はなくて、ひとり親家庭とか世帯という表現をしている。コロンビアはどうかというと、日本に近い。すなわち、結婚した人でも離婚・死別でひとり親になった女性をシングルマザーと言っている。

コロンビアの母子家庭状況

前回も少しふれたが、母子家庭は近年増えつつある。コロンビアの私立大学で有名な「アンデス大学」の調査によると、シングルマザーが2010年では都市部に住む女性の全体の35%だったのが、2016年では39%になったという結果だった。2017年の国家統計センター（DANE）によるとコロンビア人母親の56%が家長、総数でいうと1,230万人にも上る。

母子家庭には様々な問題がある。その中でやはり重要なのは「経済」、つまり、労働と収入に関する事である。コロンビアでは男女間の労働収入に不平等が突出しており、上記調査によると女性は月々のサラリーが男性のそれよりも下回る割合は35.8%に及ぶという。さらに、女性は子供の育成に加え、高齢者の介護、病人の世話など、周りの人たちへの扶助という役割

を負担せざるを得なくなっているのが現状である。

シングルマザーとなると、このような状況下で就労するのがまず難しい。収入の良い仕事は必ずしも時間の融通が利くとはかぎらない。テレワークの仕事もあるが、その収入は充分でないのがほとんどである。

元夫や男性側の責任もあるのだが、養育補助も信じられないくらい低い上に、責任を負うのが億劫な男性はしばしば姿をくらましてしまう。こうして、ますますシングルマザーの生活負担は増えるばかりなのである。

ある優良企業の話

コロンビアでの長年の友人がいつも利用するレストランがある。ボゴタの国際空港内の店舗で食事中に、「僕は外食するときはこのCrepes & Waffles（クレープ&ワッフル）しか使わないんだ。なぜかというこの店のポリシーに賛同しているからさ」と、医者の方の彼は自慢の奥さんを披露するかのよう嬉しそうに話す。彼が言うポリシーとは「女性従業員のほとんどが母子家庭のシングルマザーであり、彼女たちの就労を支援する」なのである。

まず、このレストランの紹介を少ししたい。創業は、1980年にボゴタのある小さな家の小さなガレージでクレープ屋を始めたという。紆余曲折を経て現在、クレープとワッフル、またアイスクリーム、デザートのお店としてコロンビアをはじめ、スペイン、パナマ、メキシコ、キューバなどラテンアメリカ中心に約130店舗を展開している。従業員は合わせると5,600人以上になる100%コロンビア資本の企業である。⁽³⁾

この企業の営業方針を調べてみた。ポリシーは主に7つあって、(1) 組織運営、(2) 人権、(3) 労働の実践、(4) 環境、(5) 公正な作業、(6) 消費者の立場、(7) 地域発展のための貢献である。⁽⁴⁾

私の友人が賛同しているのは、この中の(2)人権の部分である。従業員は主に社会で「脆弱扱い」されている立場の人たちである。まず、黒人系の女性、シングルマザー、読み書きのできない女性の優先雇用を行っている。人種差別の撤廃や母子家庭での負担を少しでもなくすために、このような立場の女性の優先雇用をしているのである。友人は、90%以上の従業員が上記の立場の女性だと言う。これ以外にも、クレープ&ワッフル社は福利厚生には力を入れていて、従業員に優しいシステムを取っている。



クレープ&ワッフル⁽⁵⁾

[註]

- (1) "Diferencias entre madre solteray familia monoparental" <https://eres-mama.com/diferencias-entre-madre-soltera-y-familia-monoparental/>
- (2) "Madre soltera en Colombia" <https://antetodocolombia.org/madre-soltera-en-colombia/>
- (3) "10 Claves del éxito de los Restaurantes Crepes & Waffles" <https://www.marketingyfinanzas.net/2021/05/10-claves-del-exito-de-los-restaurantes-crepes-waffles/>
- (4) "Crepes & Waffles" <https://culturaglobalrse.wordpress.com/crepes-waffles/>
- (5) "La puja de los tres centros comerciales por Crepes & Waffles" <https://elcronista.co/empresas/la-puja-de-los-tres-centros-comerciales-por-crepes-waffles/>